

## 英詩理解のための設問形式に関する研究

A Research on the Questioning Method  
for Further Understanding of the English Poetry

林 正 雄

Masao HAYASHI

（1996年10月7日受理）

### はじめに

これまで筆者は、文学テキストに一連の設問項目を付加し、その設問に学生がどのように反応し、どのような感想を抱き、どのように回答してくるものかという研究を続けてきた。そのきっかけはレディング大学で受講したTEFL（「外国語としての英語教授法」）の講習であったように思う。このとき使用されたテキストは、目標言語としての英語の発話を促すために文学作品が用いられており、テキストに添えられた設問は、テキストの内容理解を目的としたものだけではなく、テキストを理解した後で、そのテキストの内容に学生がどのように反応するかを問うことを目的としていた。<sup>1</sup>

日本の大学における英米文学講読の授業は主に作品理解に重点をおいたものであり、そのあとの post-reading activity に関する研究はなぜか閑却されている。おそらくできるだけ多くの作品紹介を優先させようとする教師側の事情によるものであろうが、量をこなそうとするあまりに、学生の理解状況を考慮しないで許容範囲を超える教材を詰め込むことは、学生の授業への興味を損ねる危険性が多分にある。海外においても、文学部の学生に課する読書の量の大きさには驚かされるが、TEFLにおける文学教材の扱い方には、はるかに時間的ゆとりがあり、学生一人一人が自分のペースで詩作品を鑑賞することができる。読書量のノルマに追われてテキストの内容を十分に咀嚼しないままに読み飛ばしてゆくことが習慣づくると、その弊害は無視できないものとなる。一通り読み終えて作品内容を理解したあと、それで終わってしまうのではなく、その理解内容を元にいろいろな文学的テーマについて考えさせるという文学講読本来の目標が見失われているように思われる。詩作品をベースに創造的思考過程を作業化するために、知識を詰め込むことから考えさせる方向への方向転換、つまり、知識教育から発想教育への転換は、英米文学講読の授業においても要請されているのである。

本稿第1章では学生が単に設問項目に答えるばかりではなくて、学生自身が設問作成したときの感想についてまとめた。第3章では、質問を PRQ（Personal-Response Question）と RRQ（Reader-Response Question）とに分けて考察し、それぞれがどのような特質を持つかについて分析している。それぞれの質問がどのような範疇に入るものなのか、なにを目的としたものなのか、適切な設問作成のために教官は、質問の特性についての的確に把握していなければならないと思うからである。第4章、第5章では、そうした考察を踏まえた上での設問項目が例示されてある。



## (4) 読者の反応を問う設問。

○この詩を読んで、自分の生活はどうか考えてみよう。

◎設問を作成する作業は詩に距離を置いて客観的に眺めることを要請するものであり、詩を鑑賞する自分なりの尺度を会得させるものであることが分かる。

## 1-2 質問事項を考える作業が持つメリット

学生に質問項目を考えさせる作業のもつ意味を考えてもらった。その回答の中から特徴別に分類したものを次に掲げる。

## 1-2-1 (教育学部総合課程3年生)

○作者の意図を深く読もうとする姿勢を促せる。質問とは答えを見つけた結果であるので、「もう一つ質問を作ろう」と思うと、ある程度で止まっていた詩についての理解の範囲、もしくは作者の意図についての理解の範囲を越えることができるかもしれない。

○詩を離れて日常生活でも物事に対して問題意識を常に持とうという心構えをうむきっかけとなりうる。

◎常に答えることを強いられている学生にとって、設問作成は逆に人に問いかける作業である。受動的態度から能動的態度へのアティチュードの変化がある。これは学生にとって新鮮に思えるものである。

◎設問作成はまた、新たな知識を覚えるのではなくて、今理解した文学テキストを素材に設問事項を作成して行く行為であり、クリエイティブな作業である。メンタルな意味において、分析的・批評的姿勢から統合的・創造的姿勢へのパラダイム・シフトがある。

◎教員養成課程の学生にとっては質問作成の実際的なトレーニングにもなるし、なによりも設問作成の理念的根拠についての考察を促すきっかけを与えることができる。

## 1-2-2 (教育学部教員養成課程3年生)

○設問を考えるときに、単語一つ一つの意味をじっくりと考える。また、作者の気持ちを理解しようとする。また他人のつくった設問に答えるより自分でつくった設問に答えるほうが楽しく、様々な答えがでてくる。

◎詩の表面的な意味を理解しただけで読んだつもりでいても、設問を作成することで、それまで気づかなかった詩の意味に思い当たることがよくある。表面的には設問を作成する作業の副産物として、詩の理解の内容についての考察が進展したり、詩の理解を深めたりすることができるようになるのであるが、この副産物こそが最も重要な果実であることはいうまでもないことである。

◎「他人のつくった設問に答えるよりも、自分でつくった設問に答えるほうが楽しく、様々な答えがでてくる」との指摘は、詩を材料にして詩との間にインターアクティブな関係を作り上げていると考えられる。詩との対話があった後で、同輩との意見交換をすると、詩の読みがさらに深まるし、作品解釈に幅があることから生まれる対話が進むものである。これは解釈という作業の相対性に気付かせ、自分の解釈の正当性を如何にして根拠付けるかというトレーニングにもなる。

## 第2章 THE APOLOGY

## The Apology

Ralph Waldo Emerson

1803—1882

Think me not unkind and rude

That I walk alone in grove and glen;

I go to the god of the wood

To fetch his word to men.

Tax not my sloth that I

5

Fold my arms beside the brook ;

Each cloud that floated in the sky

Writes a letter in my book.

Chide me not, laborious band,

For the idle flowers I brought,

10

Every aster in my hand

Goes home loaded with a thought.

There was never mystery

But 'tis figured in the flowers;

Was never secret history

15

But birds tell it in the bowers.

One harvest from thy field

Homeward brought the oxen strong;

A second crop thine acres yield,

Which I gather in a song.

20

## 注

1.2 glen: A mountain-valley, usually narrow and forming the course of a stream.

1.5 tax: charge, accuse

1.9 chide: reproach in a usu. mild and constructive manner,

laborious: industrious

1.20 in: with the form of

## 2-1 質問

## 1. この詩の主旨について説明しなさい。

○森や谷を一人で歩いていたり、小川のほとりで腕を組んで静かにたたずんでいたたり、たわいもない花を家に持ち帰っても、思想家・詩人である私を、どうか怒らないでほしい。私は怠けているのではなく、神の声を聞いていたり、それを皆に伝えるべく詩を作っているだけなのです。それを認めてほしい、という思い。

## 2. 第5連の内容を説明しなさい。

○強い雄牛は神の土地から一つの作物を家に持ってきた。そして私は神の土地から神の意志を自分の言葉に置き換えて、詩という形で第二の作物を収穫しているのだ。

◎屈強な牡牛は畑の収穫物を家に運び、一方私は第二の収穫物としてこの詩を刈り入れる。

## 3. タイトルの 'Apology' は、詩人が誰に、どのような点を「謝罪」しているのか説明しなさい。

○農作業にいそしむ人を始め、毎日懸命に働いている人々に対しての謝罪。詩作にふけているのを、怠けているととられるのが嫌だから。

## 4. 3行目のgodはどのような神か。Godとの違いを説明しなさい。

## 2-2 学生が追加した質問

1. 詩人がこの詩を書こうとした動機はどのようなものであったと思いますか。

2. aster (l.11) の代わりに rose としたらこの詩はどのように変わるでしょうか。

3. 詩人が散策したり、たたずんでいたたりしている場所にはどのようなものがあるか、各連ごとに詩の中の場所を表す名詞を拾い上げなさい。

4. もっとも気に入った表現箇所を書き出しなさい。

## 第3章 WOODMAN, SPARE THAT TREE

Woodman, Spare That Tree

George Parkins Morris

1802-1864

Woodman, spare that tree!

Touch not a single bough!

In youth it sheltered me,

And I'll protect it now.

'Twas my forefather's hand

5

That placed it near his cot;

There, woodman, let it stand,

Thy ax should harm it not.

That old familiar tree,  
 Whose glory and renown 10  
 Are spread o'er land and sea,  
 And wouldst thou hew it down?  
 Woodman, forbear thy stroke!  
 Cut not its earth-bound ties;  
 O, spare that aged oak, 15  
 Now towering to the skies!

When but an idle boy  
 I sought its grateful shade;  
 In all their gushing joy  
 Here too, my sister played, 20  
 My mother kissed me here;  
 My father pressed my hand—  
 Forgive this foolish tear,  
 But let that old oak stand!

My heart-strings round thee cling, 25  
 Close as thy bark, old friend!  
 Here shall the wild bird sing,  
 And still thy branches bend.  
 Old tree! the storm still brave!  
 And, woodman, leave the spot! 30  
 While I've a hand to save,  
 Thy ax shall hurt it not

## 注

l.12 And: and yet

l.12 hew : to fell by blows of an ax <~ a tree>

l.13 forbear: to hold oneself back from with an effort

l.18 grateful: acceptable, comforting, refreshing.

## 3-1 質問

- 23-24行には作者のどのような心情がこめられてるか説明しなさい。
- 幼年時代の楽しい思い出にはどのような情景が思い出されますか。
- この詩ではオークの木が詩人に幼年時代を思い出させています。あなたの幼年時代の記憶を思い出させるきっかけとなるものにどのようなものがありますか。
- 8行目を 'I' を主語にして書き換えなさい。
- 第1連で詩人は誰になにをしてくれと懇願しているのですか。

6. foolish (l. 23) は次の何番目の意味で用いられているでしょうか。
7. 17行で省略されている語句を補いなさい。

### 3-2 Personal-Response Approach と Reader-Response Approach

文学テキストを扱う際に、personal-response approach (PRA) と reader-response approach (RRA) という概念を導入して設問の種類を考えてみた。<sup>3)</sup>

PRAによる設問は、文学テキストの中に埋め込まれているという前提の元で、読者によって読みとられた作者の意図について、そしてまたテキストの中に確固として存在すると仮定された種々の意味について設問が作成される。この作業の最も重要な目的は、作者によって書かれたテキスト(author's text)に内在すると仮定された作者の意図、あるいはテキストの意味を解き明かすことであり、読者のテキスト解読能力が問題にされ、読者自身の感懐や読後感に第一次的意味が与えられることはない。作者あるいはテキストが優先され、読者は二次的な位置に置かれる。

一方RRAにおいて問題となるのは、読者(学習者)と原テキスト(original text)との間の読み込み作業の結果創造される「読者のテキスト」(reader's text)である。この「読者のテキスト」は固定的なものではなくて、読者の独断、偏見、思いこみ、それまでの経験の違い、などによって相当な開きがでてくる。「読者のテキスト」は読者が作り上げるものであり、読者が第一義的役割を果たし、テキストはそのための素材にすぎない。

このように、PRAとRRAとは何を質問の対象とするかという点において対照的な立場に置かれている。それぞれに基づく設問形式にも大きな相違が生じてくる。しかしこれらは、設問作成のためのテキスト分析の視点として、その何れが優れているかという問題として捉えるよりも、学習者の語学的・文学的レベルの相違、文学教育なのか、語学教育を目標に置いた質問作成なのか等々の相違に応じて使い分けるべきものである。

### 3-3 RRAとPRAによる質問の分類

PRAとRRAの相違を具体的に明示するためにこの分類概念を3-1の質問項目に当てはめると次のようになる。

1. 23-24行には作者のどのような心情がこめられてるか説明しなさい。  
◎これは、PRQである。幼年時代に両親や兄弟と一緒に遊んだ楽しい日々を思い出している。そのような思い出を心に浮かばせるきっかけとなるオークの木を切り倒さないでほしいと頼んでいる。涙が出るほどに懐かしんでいるところをみると、共に遊んだ人々は、遠くにいつてしまったか、あるいはもうこの世を去ってしまったのかもしれない。
2. 幼年時代の楽しい思い出にはどのような情景が思い出されますか。  
◎このたぐいの質問は詩を読む前の準備段階の作業(pre-reading activity)として相応しいものである。読者の個人的な思い出を語らせる質問であり、RRQである。
3. この詩ではオークの木が詩人に幼年時代を思い出させています。あなたの幼年時代の記憶を思い出させるきっかけとなるものにどのようなものがありますか。  
◎読者の個人的体験を問う質問であり、RRQである。
4. 8行目を 'I' を主語にして書き換えなさい。  
◎I should not let you harm it. 文法的知識を問う質問。

5. 第1連で詩人は誰になにをしてくれと懇願しているのですか。

◎詩人はきこりに、思い出の樹木を切り倒さないでくれと懇願している。内容把握力を問う質問。

6. foolish (l. 23) は次の何番目の意味で用いられているでしょうか。語彙力を問う質問。

1: lacking in sense, judgment, or discretion

2: absurd, ridiculous

3: insignificant, trifling, humble

◎1

7. 17行で省略されている語句を補いなさい。文章構成力を問う質問。

◎When I was but an idle boy

### 3-4 英問英答にした場合

上の質問を英語で質問した場合のことを考えてみたい。質問は次のようになるだろう。

1. What poet's feelings can you read in the lines 23-24?

2. If you have some sweet memories in your childhood, explain them briefly.

3. In this poem the oak tree makes the poet remember the happy days of his childhood.

Is there some particular objects that makes you recall your childhood.?

4. Rewrite the line 8 beginning with 'I'.

5. In the first stanza, what and whom does the poet asking ?

6. In which meaning is the word 'foolish' used? Choose a number from the following definitions.

1: lacking in sense, judgment, or discretion

2: absurd, ridiculous

3: insignificant, trifling, humble

7. Supplement the words abbreviated in the line 17.

さて、言語習得を目的として、質問事項を英問英答にするとどのようなことになるのであろうか。P R QもR R Qも共に学習者の英語による発話を促すことを目的としているが、この二種類の質問形式の間に生まれる相違点を考えてみたい。

P R Qは、一連の設問形式が、段階を踏んで理解を深めるように設定されたものであるときには、学習者にとって大いにテキスト理解の助けとなる。しかしながら、学習者の英語による発話に関して言えば、質問項目に答えればそれで応答が終わるので、学習者自身の発想を英語で表現するように促すものではない。質問内容が単に学習者の理解の程度を試すような内容のものであれば、質問に答えた後で学習者はノルマを果たし終えたかのように文学テキストから離れてしまうかもしれない。これは学習者とテキストの間のインターアクション(?)が外的強制と学習者に感じられたときに起きる。質問の内容は言語教育を目的としたもの、内容理解を目的としたものなど機能的に多様なものが可能である。しかしながら、質問の難易度が高すぎるときに学習者は受動的になり、テキストへの興味を失うおそれがある。

他方R R Qは、学習者自身の体験や感想を目標言語で表現することが第一義的目的となるよ



うに設問が作成される。学習者の感想や判断、判断基準、根拠について問いかける R R Q に対する回答は、Yes-no questions のようにそっけない回答に終わるのではなく、相当に長い表現が求められるので外国語による表現の練習としては適当であるが、学習者にあらかじめ相当な語学力が求められる。<sup>v</sup> 今述べた設問内容による二種類の分類は、それぞれの特徴があり、テキスト内容に応じて使い分けをすることによって効果的な設問作成が可能となる。

何れの場合でも、英問英答問題を作成する際に留意しなければならないことは、多くの日本人学生にとって英答すると言うことは深層構造部分から英語によって表出される想念があるわけではないという点である。母国語によって構成されたある想念があってそれを target language (英語) にトランスレートするのである。<sup>v</sup> 従って、日本人学生を対象とした TEFL において、コミュニケーション能力の養成とは、スピーディーなトランスレーション能力の養成と考えるとよいのではなかろうか。

#### 第4章 THE OLD FAMILIAR FACES

##### The Old Familiar Faces

Charles Lamb

1775-1834

I have had playmates, I have had companions,  
In my days of childhood, in my joyful school-days;  
All, all are gone, the old familiar faces.

I have been laughing, I have been carousing,  
Drinking late, sitting late, with my bosom cronies; 5  
All, all are gone, the old familiar faces.

I loved a Love once, fairest among women:  
Closed are her doors on me, I must not see her—  
All, all are gone, the old familiar faces.

I have a friend, a kinder friend has no man: 10  
Like an ingrate, I left my friend abruptly;  
Left him, to muse on the old familiar faces.

Ghost-like I paced round the haunts of my childhood,  
Earth seem'd a desert I was bound to traverse,  
Seeking to find the old familiar faces. 15

Friend of my bosom, thou more than a brother,  
 Why wert not thou born in my father's dwelling,  
 So might we talk of the old familiar faces,

How some they have died, and some they have left me,  
 And some are taken from me; all are departed; 20  
 All, all are gone, the old familiar faces.

#### 注

1.11 ingrate : person not feeling or showing gratitude; ungrateful, unthankful person

1.4 carouse : To drink 'all out', drink freely and repeatedly.

1.5 sitting late : Used of persons seated (usually at a table) for the purpose of, or while engaged in, eating, drinking, gaming, etc.

crony : = crone : 親友

1.13 :haunts : places frequently visited

1.14 traverse: To cross (a mountain, river, sea) in travelling

1.19 some they : some of them

#### 4-1 質問

1. 11行目、'a kinder friend has no man' の省略された語句を補って、書き直しなさい。

No man \_\_\_\_\_.

2. この詩には詩人のどのような心境が描かれているか、説明しなさい。

3. 時間的展開について配慮しながら、1～5連で取り上げられている主題について考えて、その簡単な要約となる名前を付けなさい。

(例) 第1連…幼なじみと無邪気に遊んだ幼年時代。

4. 第1連と最終連におかれた対比的要素はどのようなものか説明しなさい。

#### 4-2 解答例

1. 11行目、'a kinder friend has no man' の省略された語句を補って、書き直しなさい。

No man \_\_\_\_\_.

◎詩行の省略された語句を補い、正確にシンタックスを読みとる練習。

No man has a kinder friend (than I have).

2. この詩には詩人のどのような心境が描かれているか、説明しなさい。

◎Personal-Response-Questionの具体例。

晩年になって同輩が皆他界し、ただ一人取り残された詩人の寂しい心境が描かれている。

3. 時間的展開について配慮しながら、1～5連で取り上げられている主題について考えて、その簡単な要約となる名前を付けなさい。

(例) 第1連…幼なじみと無邪気に遊んだ幼年時代。



4. 7行目で、詩人が涙するのはどのような理由によるものだと考えられますか。

◎故郷を追われた追放者だから。

◎記憶にある長閑な風景と比較して現在の詩人は苦境にあるから。

### 5-3 感想

長閑な故郷の風景を思い出すとき、人はなぜか涙に咽ぶほどに感動することがある。過ぎ去った幼年時代を懐かしむノスタルジア、今と比べ純粋な気持ちでいることのできた時代への郷愁、取り戻すことのできない時間への名残惜しさ、などの理由によるものである。この詩は、分かりやすい言葉遣いの中で、そのような郷愁の思いを生み出す。31字で作られた英詩は例外的に短いものであり、余韻嫋々として日本の俳句を思わせるものがある。

### まとめ

講読対象のテキストに設問項目を付加させることから得られる作品理解の上でのメリットは少なくない。学生に対するアンケート調査の回答を元にまとめてみた。設問付加のメリットについては、次の二種類の意味から扱わなければならない。

まず第一に、学生が付加された設問に回答する場合。設問に答えることで詩をいろいろな角度から（表題、単語の象徴的意味、詩形など）から総合的に評価することができる。詩を読むという行為は、穴だらけの不完全なテキストを元に読者自身の体験と想像力を手がかりに独自の概念を構築してゆく作業である。通り一遍の読みでは、詩の奥深い意味をくみ取るとはとうていできない。設問項目作成の目的は、何にポイントを置いて詩を読むべきか焦点を絞って提示することにある。代名詞の対応関係や文法的知識を問う質問も必要であるが、それは詩全体のテーマを総合的に把握するための質問であるべきであろう。従って項目が多すぎて焦点が曖昧な設問は、読者に不必要な負担を強いるだけで、かえって詩を楽しむ興味を削ぐ恐れがある。文学作品は特に、読者がそれぞれの立場で好き勝手に読んでゆけばよいものであるにも拘わらず、質問項目を設けて唯一の正解を押しつけるようになってしまえば本末を転倒したのになってしまう。せっかくの良い詩が設問項目を付加することによってつまらない詩に変わる危険性がないわけではない。必要最小限で、焦点の絞られた設問作成には相当な修練を要するものである。

第二に、学生が設問を作成する場合。質問を作成するためには、自分が十分にその詩を理解していなければいけないので、詩を繰り返し読むことになり、結果的に詩を深く理解することができる。付加された設問事項に答えた後でも、自分が設問を考案しようとする、一段深い読みが必要であることを学生は実感している。設問に答えるだけならば、学生の立場の延長で不都合はないが、設問を作成するという体験は、すでに教師の立場に立っている行為である。これは学生にとっては新鮮な作業であると同時に、将来選択する職業と深く結びついている作業であるだけに、教える側にも教えられる側にも真剣さが加味される。こうした体験は特に将来教師として種々の問題作成を実践してゆかなければならない教育学部の学生にとっては、貴重な体験である。

設問を作成するという作業は実は教師にとっても大きなメリットがある。何の目標も持たずにただ漠然と読み過ぎてしまうかもしれない詩作品でも、設問を作成することになると、詩

の内容・テーマについては言うまでもなく、作品の構成様式、タイトルの象徴的意味等々について総合的な目配りが必要になってくる。筆者がこれまでに着眼したもので、テキスト理解に有効であった設問項目を列挙してみる。具体的な設問は個々のテキストによって異なるが、一般的手法を挙げれば次のようなものが考えられる。

- ・代名詞の指示する語句を指摘させる。
- ・主題の要旨を述べさせる。
- ・英詩において、倒置した語順を並び換えさせる。
- ・対比されている観念・語句などを指摘させる。
- ・カラー・シンボリズムについて考えさせる。
- ・孤島、夫婦、誕生、等々のありふれた普通名詞が持つ象徴的意味について考えさせる。
- ・タイトルのもつ象徴的な意味について考えさせる。
- ・キーワードの意味をはっきり理解させるための質問形式を用意する。
- ・Pre-reading activity のための設問を作成する。
- ・Post-reading activity のための設問を作成する。
- ・テキストの主題によって連想した自己の体験について感想文を書かせる。

漫然とした目標を持たない読みとはちがって、明確なモチベーションに裏付けられた読書態度は文学作品の理解に深みを与えてくれるように思える。

## 後注

- i Alex Martin and Robert Hill, *Modern Poetry*, Cassell Publishers Limited, 1991.  
John McRae & Luisa Pantaleoni, *Chapter & Verse*, Oxford. などのテキストを用いた。
- ii ○は学生の回答、◎は教官のコメントを示すサインとする。
- iii Cf. *ELT Journal*, Vol. 50, No. 2, pp. 127-134.
- iv 拙論参照のこと。林正雄(1995)：設問形式を利用した英詩導入方法の研究、静岡大学教養部研究報告(人文・社会科学篇)第30巻第2号、pp. 31-32.
- v Cf. 「もともと母語で記憶に保存されている分野のトピックについて書くときには母語で書いたものを後から英語になおした方が内容的に豊かな作品ができるという研究結果」あることを指摘するだけにとどめておく。(静 哲人、「パソコン・ライティング」、『英語展望』, 1996. p. 32.)

## A Research on the Questioning Method for Further Understanding of the English Poetry

Masao HAYASHI

(Received October 7, 1996)

The purpose of this paper is to study the usefulness of the Questioning Method for a deeper understanding of English poetry, as well as to devise various kinds of questions for that purpose. The aims of the questions are to assist students to understand poems by asking them to think for themselves about various clues of poems.

Following are the hints to make useful questions.

- To summarize the theme of the poem.
- To identify pronoun references.
- To rearrange the inverted word order.
- To point out some contrasting sets of ideas or words.
- To think of color symbolism from the color names referred in the poem.
- To think of symbolic meanings of commonly used nouns such as 'Island,' 'Birth,' 'Marriage,' 'Death,' etc.
- To think of the symbolic meanings of the title of the poem.
- To prepare some questions for pre-reading activities.
- To prepare some questions for post-reading activities.
- To relate themes of poems to students' own experiences.

The students are asked not only to answer questions, but also to make questions on some easier poems. There are some intrinsic merits in making questions. To prepare some good questions they have to understand poems more deeply than usual: they pay keener attention to the theme, structure, rhetoric, title, etc. of the poems.

This paper also explains the differences between Reader-Response Questions and Personal-Response Questions, so that teachers can be well aware of the specific quality of each question they make.